

平成29年度事業報告に関する件

特定非営利活動法人子ども環境活動支援協会が平成29年度に実施した事業結果を以下のとおり報告いたします。

1. 事業実績

(1) 概要

平成29年度は、協会20周年に向けて協会の基本方針でもある「持続可能な社会の担い手となる次世代の育成事業の体系化」の実現に向けて、理事、元理事、職員、外部有識者による委員会を設置し、2018年度以降の活動の方向性や運営体制などに関する中長期展望などについて議論を開始しました。

大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所(CEL)との共催事業として実施した「次代を担う人材育成セミナー」では、JICA 関西国際センターが進める持続可能な開発目標(SDGs)において、関西SDGsプラットフォームコラボイベントとして位置付け、今後の日本や国際社会が抱える社会的課題と教育改革の動向などを関連付け、次世代の育成事業の在り方について多くの参加者とともに考え、社会への発信を行うことができました。

甲山・神呪寺農地については、西宮市が実施した生物多様性シンポジウムにおいて、従来までの「キャンプ場が始める都市型里山」という考え方を「都市型里地里山」として位置付けることができると評価していただき、里地(神呪寺農地)の役割の重要性を指摘していただきました。

また、社家郷山・鷲林寺農地エリアでは、兵庫県企業の森第1号となる「コープの森・社家郷山」事業が、多様なステークホルダーとの連携で10年間にわたって行われてきたことへの評価やきめ細かな生物調査を基礎とした里山整備の手法が高く評価され、事業啓発分野で協力してきた当協会の事業実績にもつなげることができました。とりわけ、社家郷山キャンプ場や鷲林寺農地では、幼児や子どもを抱える家族を対象とした事業展開に力を入れ、同エリアの新たな活用者を開拓することができました。多様な主体の方々や会員プロジェクトメンバー、都市型里山ボランティアの皆さんとこれらの取り組みを進め、西宮市立甲山自然環境センターの指定管理業務の運営を行いました。

西宮市における環境学習支援事業については、1998年度から始めたエコカードシステムも20年を迎えることから、活動スタイルやその社会的意義などについて再確認を行うことや1992年から実施されている地球ウォッチングクラブ(EWC)活動との関連付けについても整理することが求められました。こうしたことは、西宮市が現在進めている第3次環境計画改定作業の中においても重要な議論の対象となりました。

西宮市の貝類館での事業展開やGISを活用した市民自然調査のとりまとめ事業についても、市民や学校関係者をつなぐ活動として実施することができました。

独立行政法人国際協力機構(JICA)から受託する廃棄物に関する研修事業(大洋州、中近東・東ヨーロッパ、アジア、中南米の4コース)は、今後3年間の事業継続となったこともあり会員企業や関係機関、エココミュニティ会議などとの連携を強化し、途上国支援だけでなく、西宮市にとっての活性化にもつながるようコーディネートを行ってきました。また、ソロモン諸島ホニアラ市で実施する第2期の草の根事業(持続可能な地域づくりに向けた環境学習活動推進プロジェクト)については、2021年度までのプロジェクトであるため事業計画を確実に実現でき、地域に根ざした事業展開が図れるよう現地職員を2名採用し体制を整えました。

こうした取り組みがJICAから評価を得、JICA理事長表彰を受けることができました。

(2) 特定非営利事業に関する事業報告

事業内容については、別添の「平成 29 年度 LEAF 事業報告書」（本書以外の事業報告附属書類はありません）にて報告いたします。

2. 組織体制・財政の確立に関する基本方針

組織体制や財政に関しては、協会 20 周年に向けて理事や職員の世代交代を進め、持続可能な組織づくりに努めました。年間事業費実績も目標とした 1 億円規模を堅持することができました。

(1) 組織体制について

1) 理事・職員・元理事などによる委員会設置による将来展望の協議

全理事が分担し各事業の現地視察や担当者ヒアリングを行うことを通じて、理事が職員と一体となって事業推進が図れるよう取り組みを行いました。

また、当協会の今後の事業展開をどのように推進していく必要があるかについて、理事・職員・元理事などによる委員会設置し、意見交換を始めました。この件については、2018 年度も継続協議を行っていくこととしました。

2) 当協会発足 20 周年記念事業について

2018 年度後半に今後の当協会事業を展望する内容でのシンポジウムなどの催しを実施することについて協議を行いました。

3) 事務局体制の強化に向けた取り組み

① 事務局運営体制の確立

ソロモン諸島での JICA 草の根事業を推進するため、現地職員を 2 名採用しました。プロジェクト事務所がホニアラ市役所内にあることから、カウンターパートとなっている保健環境部とも連携し、職員の業務執行の管理を行いました。なお、職員には日報を義務付け日常業務の把握を行っています。

<事務局職員の構成>

- ・一般職員（継続雇用）……7 名（20 歳台 1 名、30 歳台 2 名、40 歳台 3 名、50 歳台 1 名）
- ・契約職員（単年契約）……2 名（60 歳台 2 名）
- ・臨時職員（短時間契約）…29 名（平均：50 歳）

② 職員の各種スキル向上に向けた研修の実施

甲山自然の家の勤務職員を対象に西宮市消防局を招いての消防訓練を実施、施設の安全管理に向けた研修を実施しました。

(2) 財政基盤の確立について

1) 基本財源の確保及び財務管理体制の強化

財務状況と予算執行の日常的な管理ができるよう財務管理体制を強化し、黒字決算とすることができました。

3. 会員の現況（平成 30 年 3 月 31 日現在）

■正会員（個人会員：121 名、団体会員：57 団体）

以 上